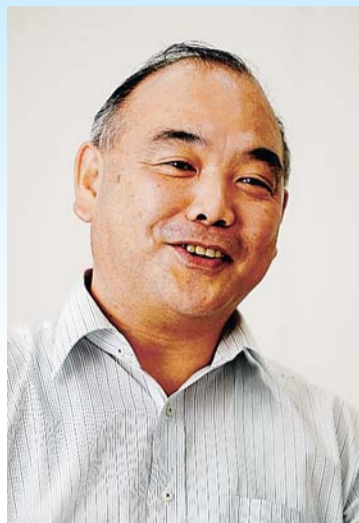


神戸マラソン2013

「感謝と友情」伝え続け



神戸マラソン実行委員会
事務局長

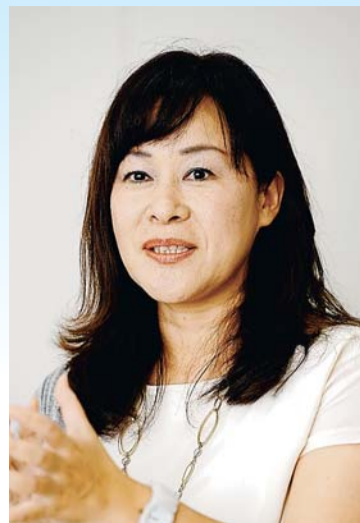
西影 宗明氏

にしかげ・むねあき 兵庫県生まれ。防災局、産業労働部を経て2011年県教育委員会事務局スポーツ振興課参事(神戸マラソン実行委員会事務局次長)。13年から現職。



ラジオ関西神戸マラソン
関連番組パーソナリティ
こしき さやかさん

こしき・さやか 鹿児島県生まれ。10月7日から始まるラジオ関西「LUN! LUN! RUN! ~駆け抜けろ神戸マラソン~」のパーソナリティ。松竹芸能所属。フルマラソンのタイムは4時間24分39秒。



ホスピタリティ・
プランディング取締役社長
永末 春美さん

ながすえ・はるみ 兵庫県生まれ。神戸市内のホテル総支配人などを経て、2010年に神鋼環境ソリューション社外取締役就任。同年、ホスピタリティ・プランディングを設立。ホテル・旅館、飲食店のコンサルティングなどを行う。



ロミ合同会社
打間ニック・ナルヤ氏

だま・ニック・ナルヤ 兵庫県生まれ。スイスで小、中、高校時代を過ごす。関西学院大学卒業後、制作会社に勤務。テレビ番組制作、イベント企画、商品マーケティングなどを担当。現在は貿易の仕事を手がける。

■ 座談会参加者 ■

〈司会〉
神戸新聞社編集局運動部長
入江 智美

永末さん 県全体で観光地アピール こしきさん ランナー向けサービスを

リピーター増へ

お越しください」というプランでアプローチするといったように、神戸に戻ってきてもらう提案をするというのではない。

打間 マラソン以外のことで神戸に来てよかったと思ってもらうことも必要。中でも外国語の表示は非常に重要だと思ふ。レストランのメニューや駅の看板は特に考えていただきたい。マラソンが楽しくても、それ以外のところで疲れてしまっ

ては次につながらない。入江 参加者が兵庫県内、神戸市内で宿泊をしてもいい。神戸市ができれば経済効果もより大きくなる。

西影 昨年の参加ランナー調査によると、日帰り客が68・6%を占めた。男女別では男性が65・9%、女性が77・7%。2万人の参加者に対して6千数百人の分の宿泊需要が生まれていることになる。神戸市内のホテルの客室数は厚労省のデータで約1万2千室。大会以外の宿泊もあり、ランナー全てを受け入れられないため、大阪に宿泊している人もいるようだ。ただ、日曜はホテルの稼働率が落ちるので終了後に県内、市内で泊ってもらうような工夫を考えた方がいいという。

永末 リピーターになつていただくためには顧客満足から顧客継続に変えていかなければならない。人は感動したことも次の日にはその70%くらいは忘れてしまうもの。だからこそアフターフォローが大事だ。例えば、マラソン参加者の中華街の優待クーポンを作成する、ホテルが誕生日にもう一度神戸にくる有馬温泉や姫路城な

ど兵庫県全体でアプローチし、ツアー会社と連携するのでもいい。こしき 走り終わったらバスで観光地まで運んでもらえるようなサービスがあれば利用したい。

西影 3回目の今回は神戸市浴場組合連合会と連携して、大会のゼッケン提示で市内の公衆浴場が無料で利用できるサービスを行う。また、兵庫県中華料理生活衛生同業組合と組んで、中華料理店で利用できる割引券をランナーに渡すサービスも考えている。

入江 神戸マラソンは東日本大震災の被災者への支援にも力を注いでいる。

西影 ランナーの参加費の1%は被災者への寄付としていただいている。また、ふだん使っているウェアの寄付もお願いしている。被災地からの応募は全員当選。今年も大会も福島県立養育院と神戸市内の高校生がスタート地点で被災地の復興を祈り「あわせ進べるよう」を歌った。また、岡本商店街振興組合は宮城・気仙沼から物産を受け入れ販売する。これ以外に、仙台ハーフマラソンとの交流も考えている。



マラソン当日に着用するウェアとシューズで審査されるおしゃれランナー賞

昨年行われたマッチ棒で森の防壁を作る、東日本大震災チャリティイベント

西影さん「ありがとう」飛び交う大会に

これから



入江 2年後は第5回大会と阪神・淡路大震災から20年が重なる。「感謝と友情」を体現しながら、神戸マラソンのメッセージ性を高めていくためには？

こしき 震災の時は小学生で大阪にいた。今の神戸を見ると震災があったのだからかと思えるほど見事に復興している。自分もランナーの一人として内外から得た支援に対する感謝の気持ちを発信していきたい。ランナーが大会メッセージを掲げて走ってもよいだろうし、それが見る方に伝わればもっと広がっていく。そのことを番組でも伝えたい。

永末 神戸マラソンはメッセージ性、物語性ともに他のマラソンとは違うものを持っている。どのような経緯でスタートし、どのような思いで大会を運営しているのかをフェイブックやブログで公開すること。さらに応援者が増えるのではない。

打間 私は阪神・淡路大震災の時はスイスで生活しており、神戸のことが心配だった。みんなに「がんばれ」と言われたことを覚えている。一番感動したのは当時のオリックス・ブルーウェーブが「がんばろう神戸」と書いた腕章をつけて戦っていたことだ。震災の時に何かの理由で「ありがとう」を伝えられなかった方もいると思う。神戸マラソンはそれを伝えるチャンスになる。ゼッケンに「ありがとう」のメッセージを書いて伝える方法もぜひ検討してほしい。

西影 神戸マラソンを通して多くの人に神戸の復興した街を見てほしいし、大会テーマである「感謝と友情」のもと、多くの絆を育んでいって欲しい。そのために、ランナーやボランティア、沿道応援の間で「ありがとう」が日本一飛び交う大会にしていきたい。そして終了後に「また来年、神戸マラソンで会いましょう」と全ての人が言ってもらえるようにしたい。